

共有デジタル地図の運用にかかる活動 報告について(令和3年度)

令和4年3月9日

三重県市町総合事務組合

内容

1. 活動概要
2. 共有デジタル地図の部分更新
3. 共有デジタル地図の利活用促進にかかる検討

1. 活動概要

■ 活動方針

- 行政事務の効率化・高度化を目的として、共有デジタル地図の効果的な運用を推進する。
- 共有デジタル地図の鮮度向上の対応として令和2年度市町共同撮影の成果及び竣工図等既存の測量成果を利用した共有デジタル地図の部分更新を実施する。
- 共有デジタル地図の利用分野拡大を目指して、市町向けに共有デジタル地図の利活用支援を行う。

■ 活動内容

- ①共有デジタル地図の部分更新
- ②共有デジタル地図の利活用支援
- ③その他支援活動

2. 共有デジタル地図の部分更新

2. 共有デジタル地図の部分更新

■ 事業概要

- 共有デジタル地図の鮮度向上を目的とし、竣工図及び令和2年度に実施した空中写真の撮影成果などを利用して実施する。

■ 実施予定

- 概ね50箇所程度(1箇所は概ね10,000㎡～100,000㎡)

■ 基本方針

- 共有デジタル地図共同整備運営事業のなかで実施する。
 - ★ 総合事務組合が主体となり計画立案及び作業を実施
- 作業仕様及び成果の利用は、共有デジタル地図全体更新事業の運用に準ずる。
 - ★ 測量法に基づき**公共測量成果**として取り扱う
- 市町の要望をもとに、作業対象箇所を選定し、数値地形図(共有デジタル地図全体更新の成果)の更新を行う。

部分更新実施箇所

■ 市町からの部分更新希望箇所

開発:5箇所、建物・施設等:18箇所、道路:10箇所、その他:11箇所

市町名	部分更新の区分	面積
津市	道路	約8,900m ²
四日市市	開発	約463,600m ²
	建物・施設等	約1,698,000m ²
	道路	約583,300m ²
鈴鹿市	道路	約352,600m ²
名張市	その他	約43,200m ²
	建物・施設等	約99,700m ²
いなべ市	道路	約27,700m ²
木曽岬町	開発	約111,926m ²
	道路	約33,800m ²
東員町	建物・施設等	約111,900m ²
菰野町	開発	約10,300m ²

部分更新実施箇所



●開発、公共施設、太陽光発電施設、新設道路などを対象に部分更新を実施

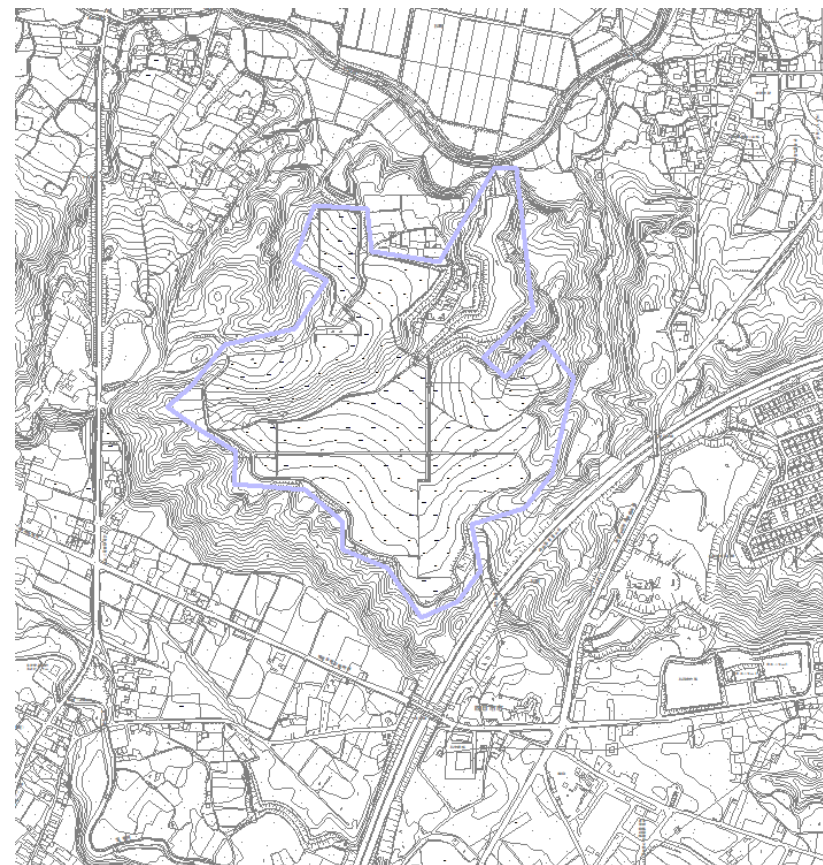
市町からの実施希望箇所(津市、四日市市、鈴鹿市、名張市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町)

実施面積:約3,54km²

実施箇所:44箇所

部分更新実施箇所

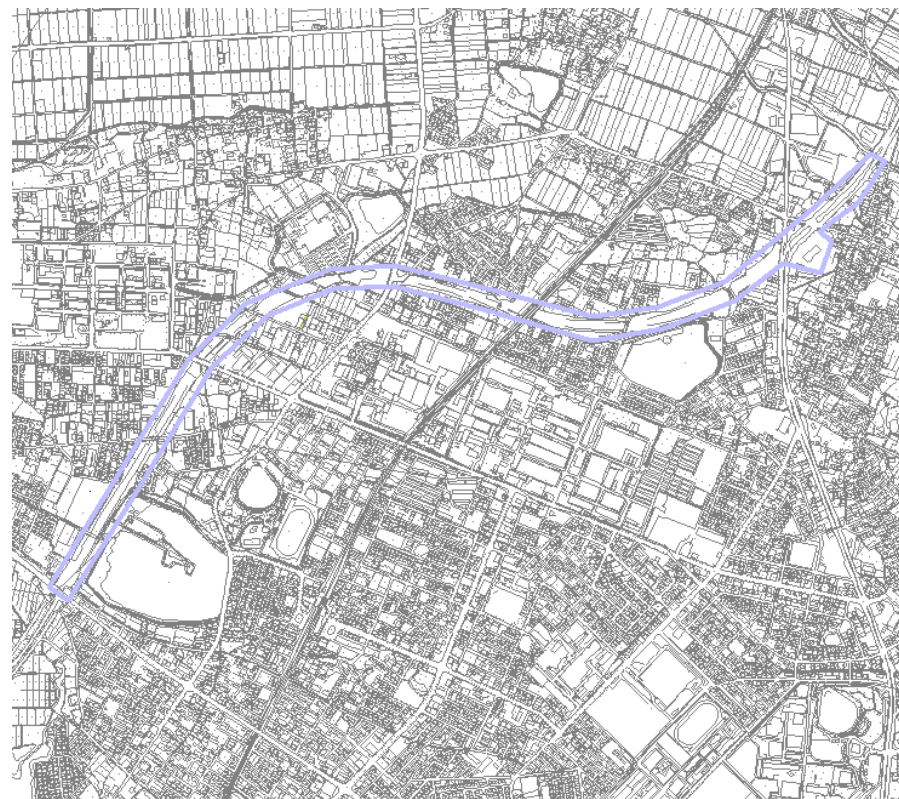
部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

部分更新実施箇所

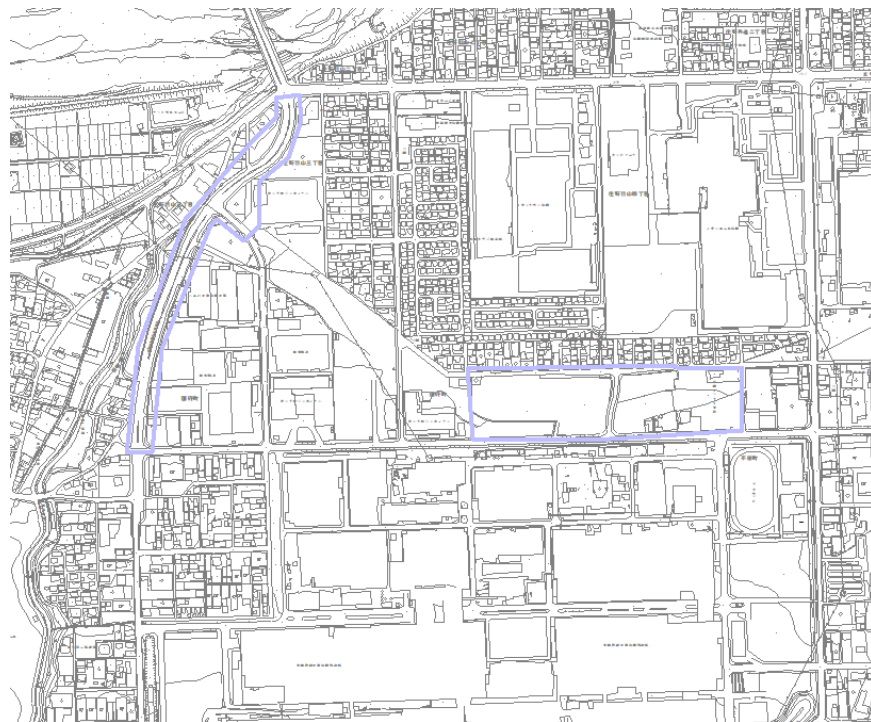
部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

部分更新実施箇所

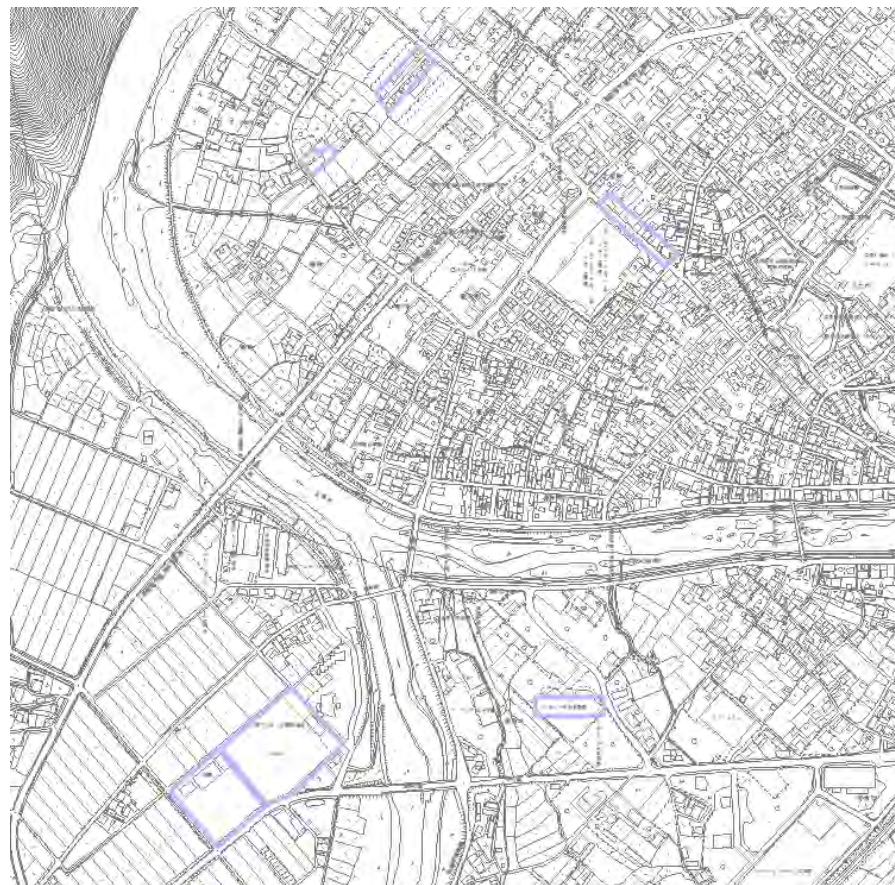
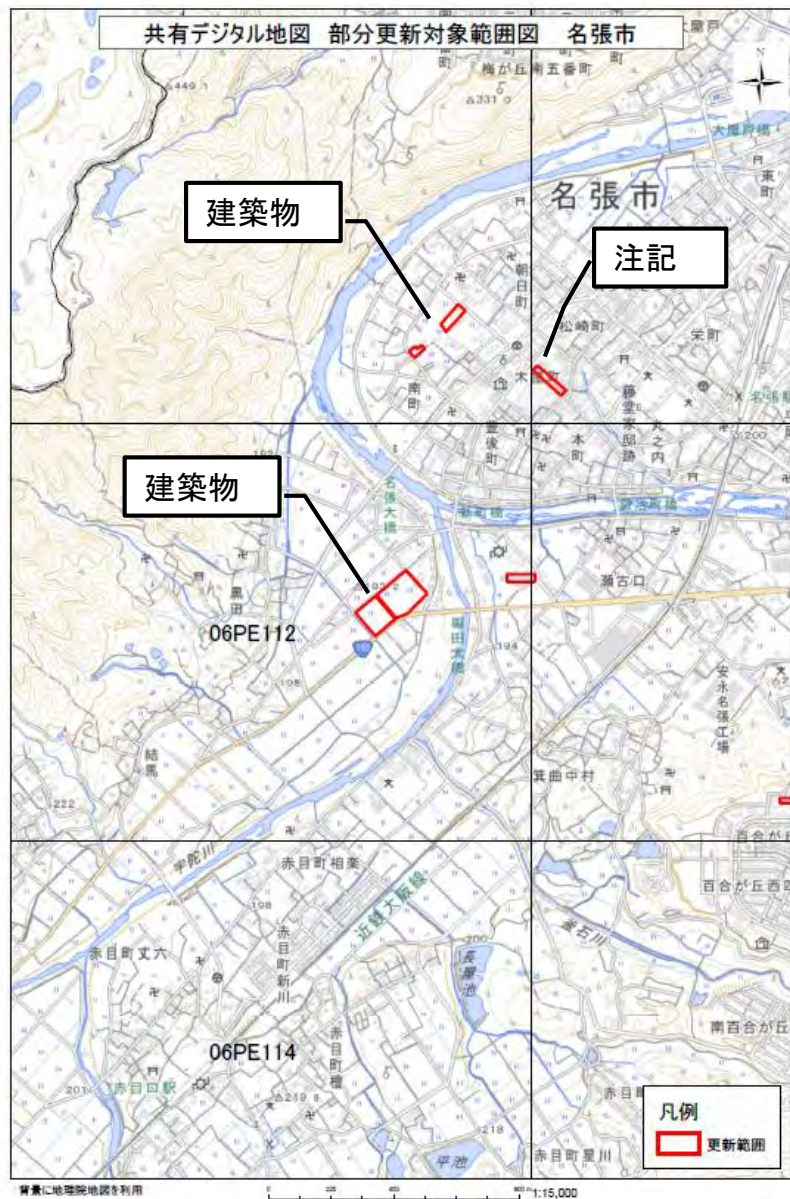
部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

部分更新実施箇所

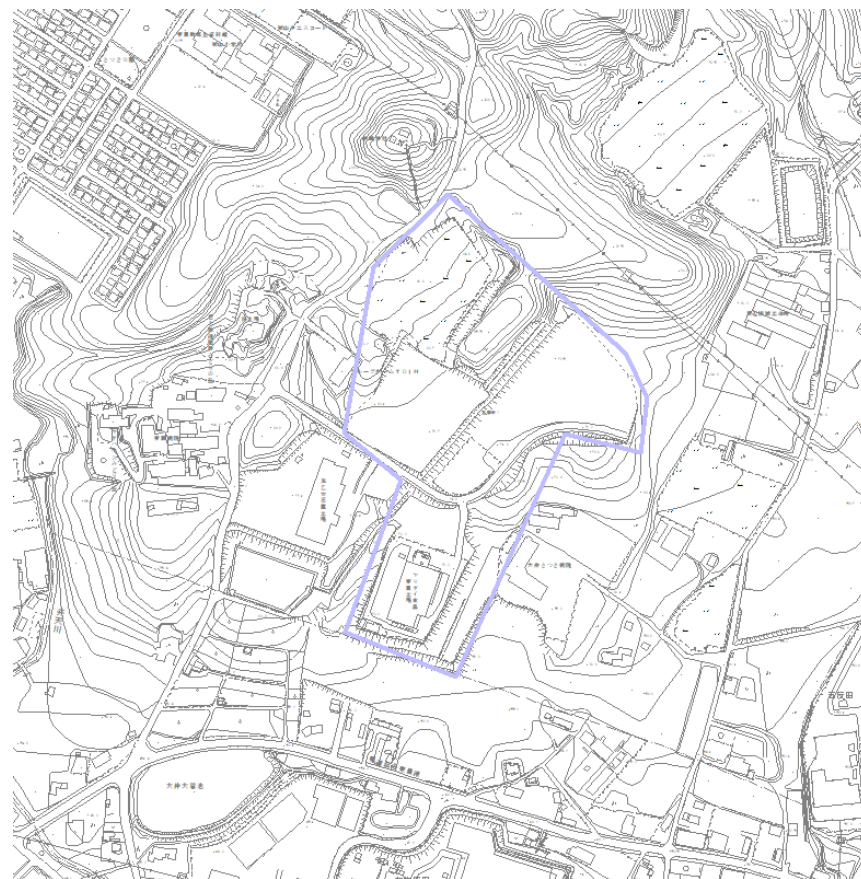
部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

部分更新実施箇所

部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

部分更新実施箇所

部分更新実施箇所(抜粋)



更新後数値地形図

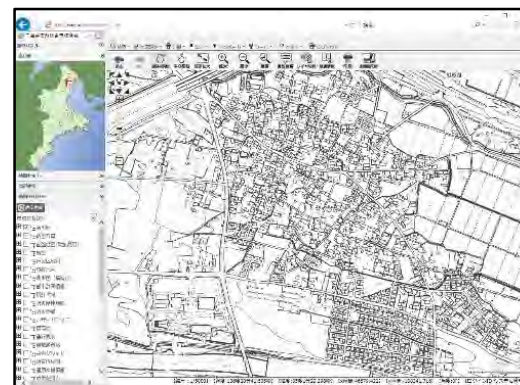
部分更新の成果

- **実施対象:延べ44箇所(3.54km²)**
※予定数量(概ね50箇所・平均面積2.2 km²)
- **公共測量の手続き:完了申請提出(国土地理院にて審査中)**
- **市町に更新データを提供**
- **地理空間情報集約システムのデータ更新**

配布対象市町	数値地形図2500 データ形式
津市、四日市市、鈴鹿市、名張市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町	DM、Shape、DXF、SXF、PDF



成果イメージ:数値地形図2500(PDF形式)



地理空間情報集約システムデータ
更新予定

3. 共有デジタル地図の利活用促進に かかる検討

3-1. 森林分野における利活用支援

■ 目的

- 令和2年度に実施した森林分野における共有デジタル地図の利活用支援策の検討結果について県内市町への展開を行い、共有デジタル地図の利活用促進を図る

■ 実施内容

- 令和2年度成果の他市町展開
 - ★ アンケート調査により、希望ありと回答のあった市町を対象にヒアリングを実施。ヒアリング結果から桑名市、鈴鹿市、多気町を支援対象とした。
- 県実施事業の状況調査
 - ★ 県による航空レーザ測量の実施状況及び県による市町への支援状況を確認
 - ★ 森林計画図(林小班図)、森林簿の提供及び本検討への利用承諾をいただいた
- 共有デジタル地図利活用事例集の更新
 - ★ 市町を対象とした森林分野における共有デジタル地図の利活用事例集を更新

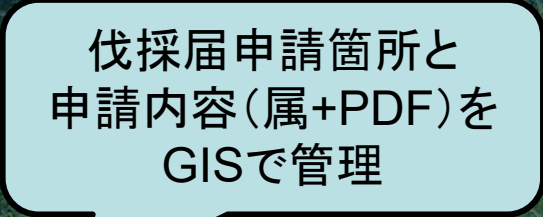
3-1. 森林分野における利活用支援

■ 共有デジタル地図の利用状況(ヒアリング結果)

- 各市町、GISの背景図として共有DMを利用している
- 伐採届等の開発申請箇所、路網・橋梁など市町が管理する情報が紙やExcelファイルで管理されており、共有デジタル地図と合わせて管理することで利便性が向上する
 - ★ 伐採届は、県にてGIS化を実施しており、市町からの申請にてデータが取得可能
- 既存の森林計画図や森林簿では、現況と合っていない箇所もあるため、写真地図を基にした樹種区分図があると森林経営管理制度適用の優先地区選定が容易になる
- 写真地図・デジタル地図の更新頻度は現状でも問題ないが、マツ枯れのようなリアルタイム性が求められる業務のためには、更新頻度を上げることが望ましい
- 境界明確化用の素図作成(公図仮配置)業務を発注し、背景図に共有DMを利用している(鈴鹿市)

■ データ試作と集約システムへのデータ登載

※県への申請によりGISデータの利用可能



3-1. 森林分野における利活用支援

■ データ試作と集約システムへのデータ登載

②林道・橋梁情報管理

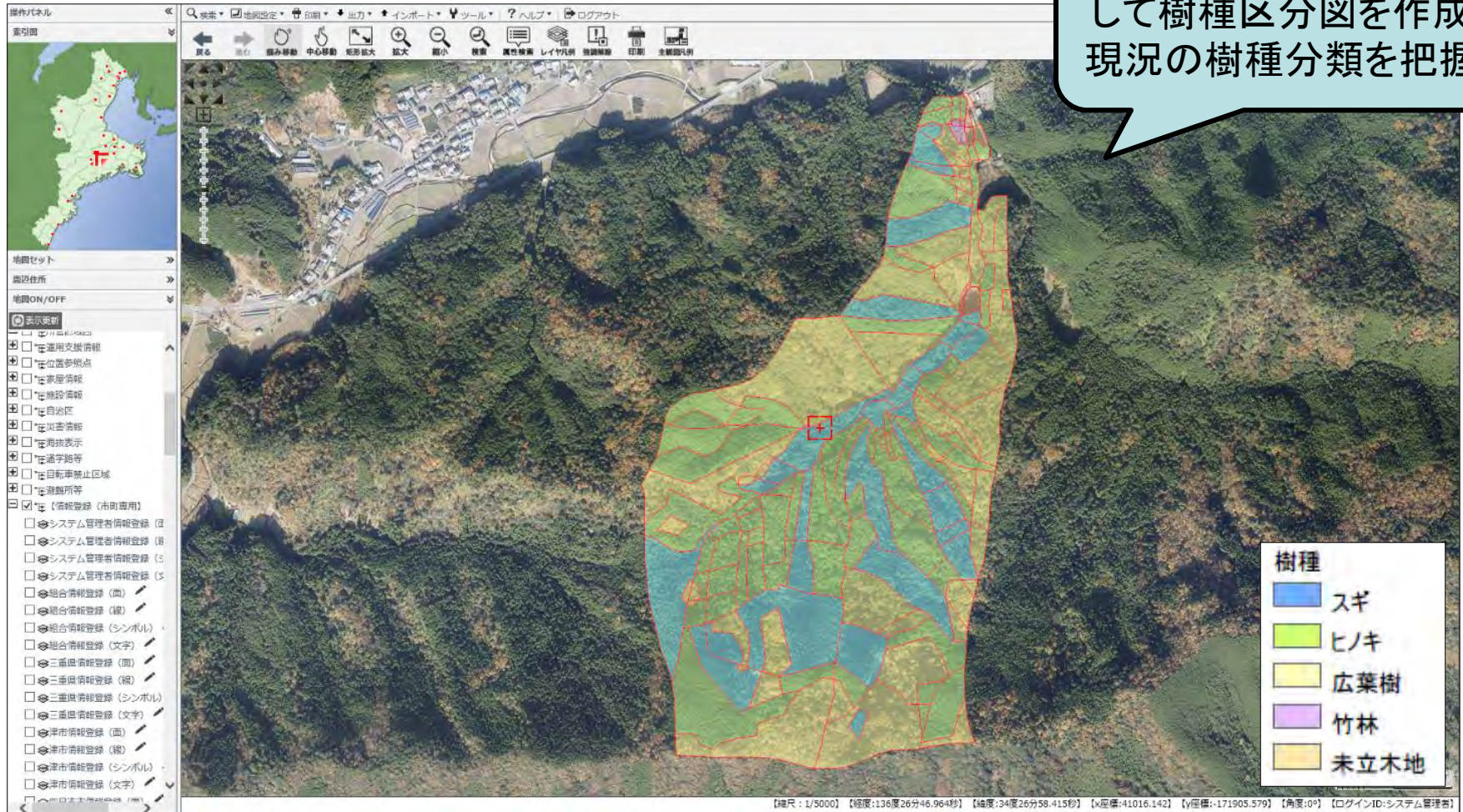


3-1. 森林分野における利活用支援

■ データ試作と集約システムへのデータ登載

③ 樹種区分図の作成

写真地図データを参照して樹種区分図を作成
現況の樹種分類を把握



3-1. 森林分野における利活用支援

【森林分野における利活用支援の成果】

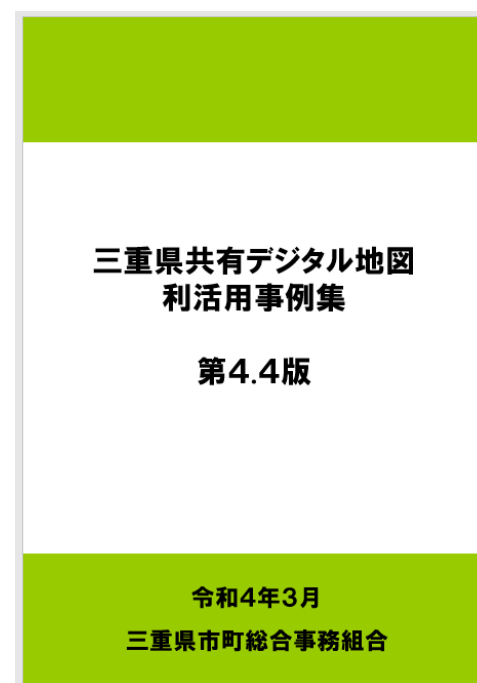
■ 共有デジタル地図の利活用案

- 共有デジタル地図を位置の基準として伐採届等の開発申請や路網をデータ化し、GISに搭載することにより森林や施設の維持管理業務で利用
- 共有デジタル地図(写真地図データ)を参照して樹種区分を作成し、意向調査対象地区の把握や森林所有者への説明資料として利用

■ 地理空間情報集約システムの活用

- 森林計画図及び森林簿の搭載
 - 路網及び橋梁等施設データの搭載
- ※伐採届のGISデータは、県への申請により利用可能

共有デジタル地図利活用事例集に追加



3-2. 都市計画基礎調査における共有デジタル地図の利用検討

■ 実施概要

- 現行の共有デジタル地図の第4期事業計画(案)では、共有デジタル地図の成果提供時期と次回の都市計画基礎調査のスケジュールが合わない可能性がある。このため、次回都市計画基礎調査における共有デジタル地図の最適な利用方策を検討する。

■ 今年度の検討内容

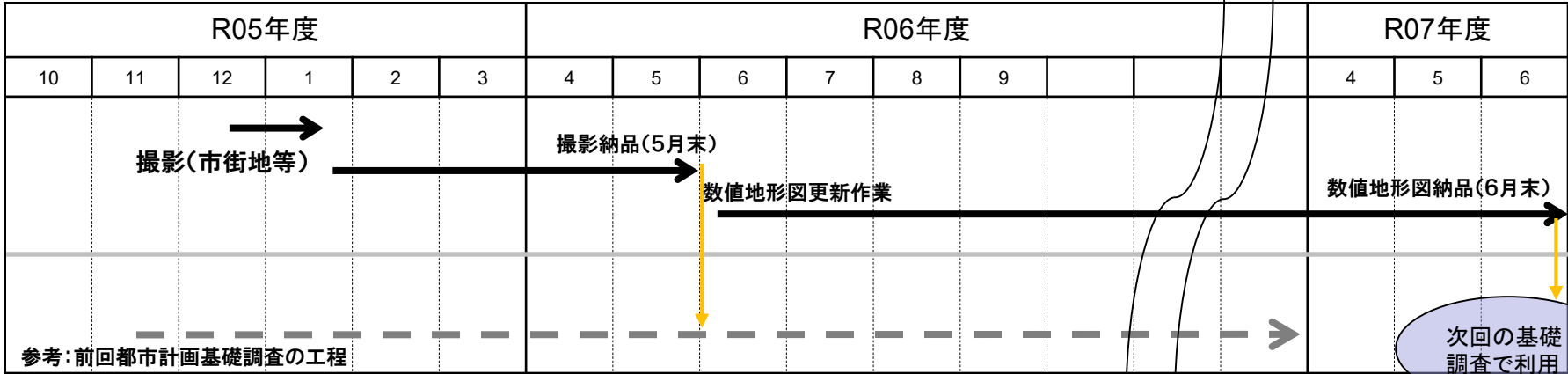
- 次回の都市計画基礎調査に共有デジタル地図を最大限活用可能とする中間納品の設定及びスケジュールの検討を行った。

3-2. 都市計画基礎調査における共有デジタル地図の利用検討

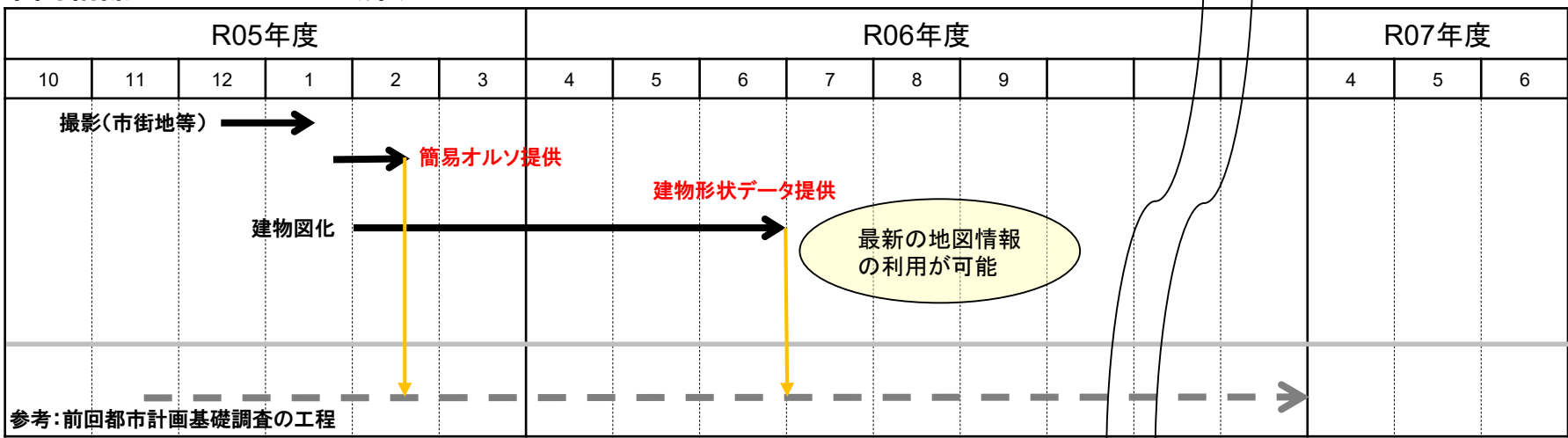
【本年度の結果】

● 中間納品の設定とスケジュール案の策定

現行の事業計画(案)におけるスケジュール



中間納品のスケジュール(案)



3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 実施概要

- 3D都市モデルの整備及び3D都市モデルを活用した都市計画・まちづくり、防災、都市サービス創出等の実現を目指す「まちづくりのDX」の取組に同調したデータ試作や利活用検討を行い、共有デジタル地図の更なる利用分野の拡大を図る。
- 本支援は共有デジタル地図事業（令和3年度の利活用支援）の範囲で行う。

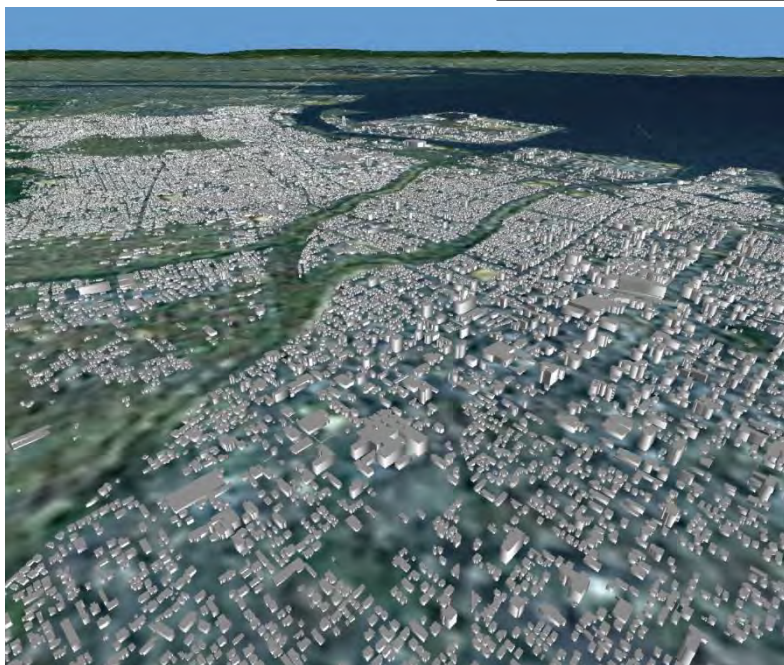
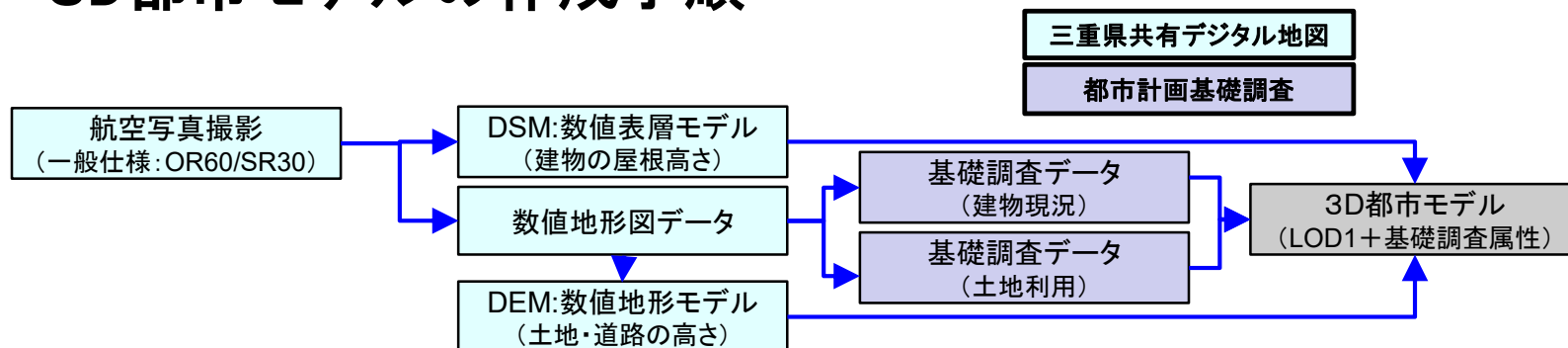
■ 今年度実施した事業内容

- 市町のニーズ調査
- 市町毎ヒアリング・打合せ、3D都市モデル試作
- 3D都市モデルの利活用提案

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 共有デジタル地図に基づく3D都市モデル

● 3D都市モデルの作成手順

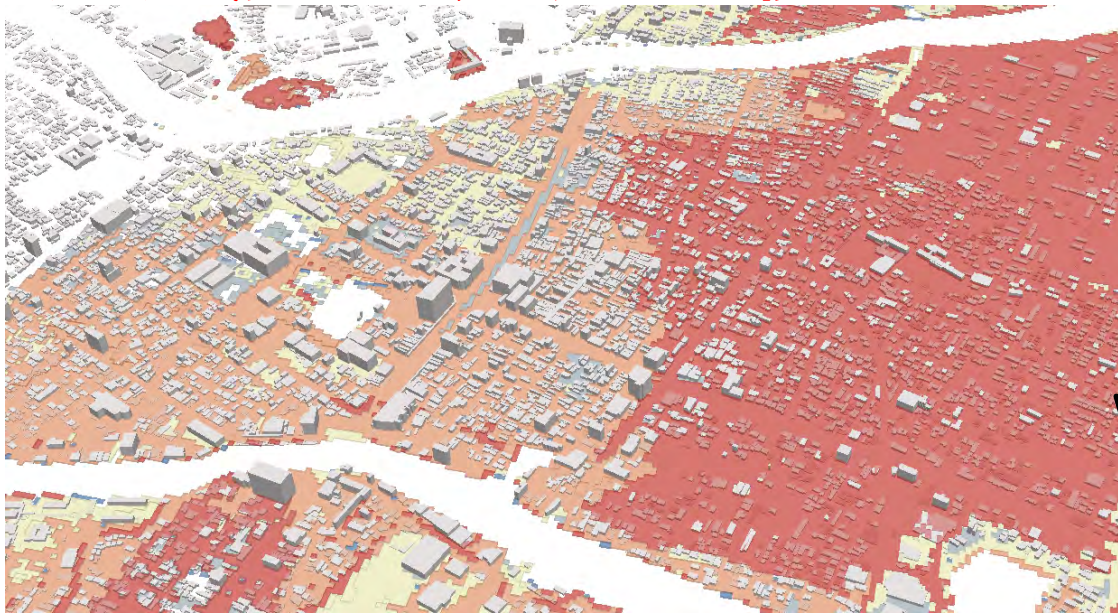


3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 共有デジタル地図に基づく3D都市モデル

- 共有デジタル地図及び三重県オープンデータを用いたデータ作成の例

(例) 浸水想定域の可視化

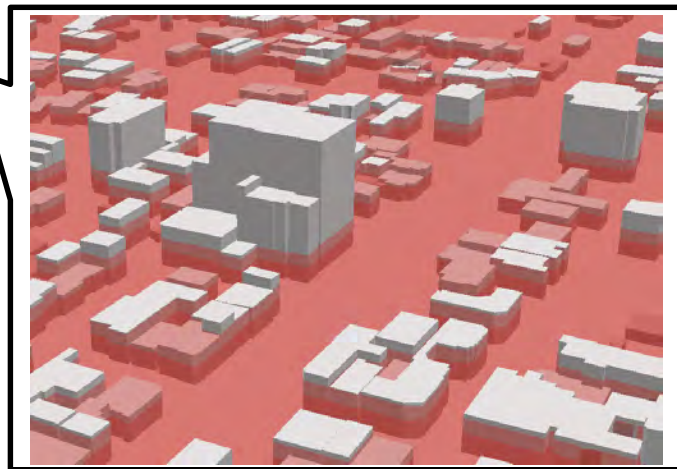


高さ情報付与

建物データ

浸水想定データ

- ➡
- ・ 垂直避難の検討
 - ・ 避難経路の見直し



使用データ

共有デジタル地図 建物データ

津波浸水想定シェープデータ: 三重県オープンデータ

<https://www.pref.mie.lg.jp/IT/HP/87583000001.htm>

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討



3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ ユースケース紹介：防災計画

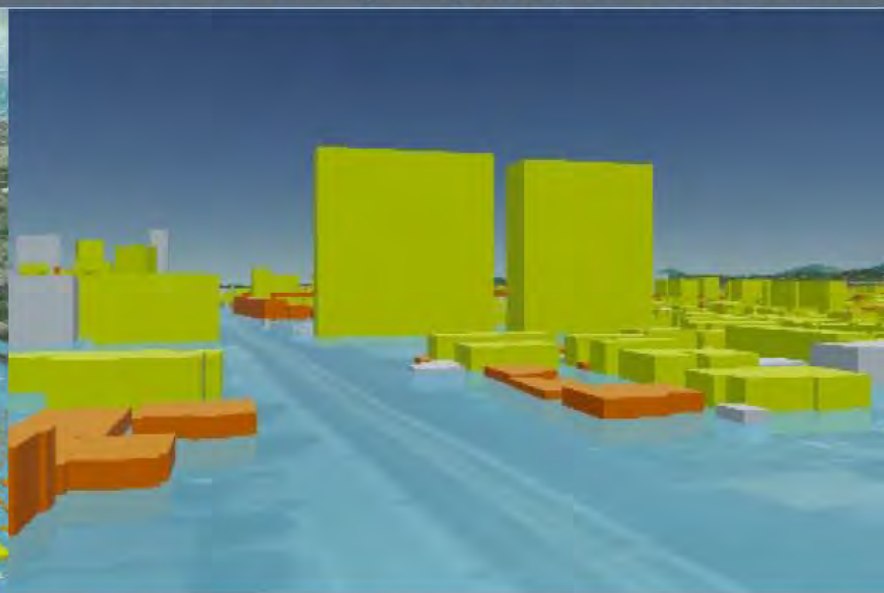
- 垂直避難の可能性を有する建物の可視化等を踏まえた防災計画検討

自治体・住民の防災意識の向上、地域の強靱化を図るため、3D化した浸水想定区域図を活用し、まち全体で「緊急的な垂直避難の可能性を有する建物」のピックアップを実施し、3D都市モデル上に可視化した。

垂直避難建物可視化(着色)結果(郡山駅周辺)



垂直避難建物可視化(着色)結果(郡山駅周辺拡大図)



地域の洪水による災害リスクを3Dで可視化するだけでなく、垂直避難可能建物を示すことにより、自宅等が垂直避難可能か否か、あるいは周辺に垂直避難可能な建物があるか否かを事前に把握することを可能とした。

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ ユースケース紹介：防災意識啓発

- 時系列浸水シミュレーションデータの3D可視化による防災計画立案・防災意識啓発

時系列の浸水シミュレーションデータを活用し、3D都市モデル上に洪水浸水想定
の可視化を試みた。意見交換を実施し、防災意識啓発に活用するほか、避難経路
の検討などの防災まちづくりに活用。



破堤20分後



破堤60分後



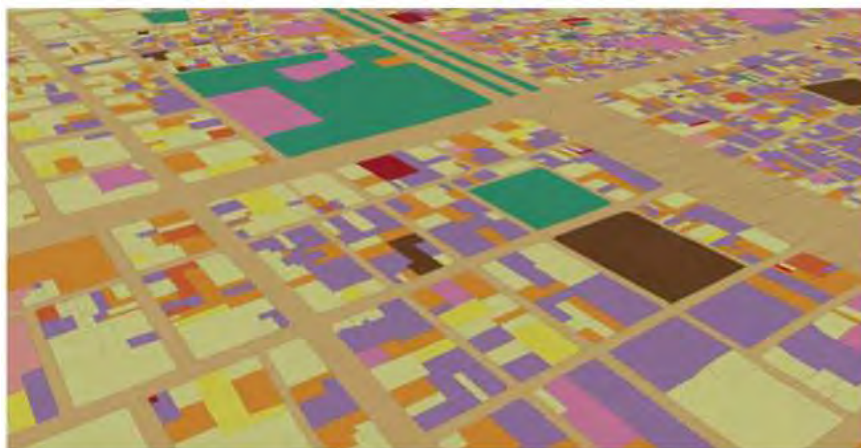
破堤120分後

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ ユースケース紹介：まちづくり(計画策定)

● 都市計画基礎調査情報を活用した都市構造の可視化

定期的に調査・蓄積されている都市計画基礎調査情報を活用し、Webブラウザ上で過去からの都市構造の変遷を可視化



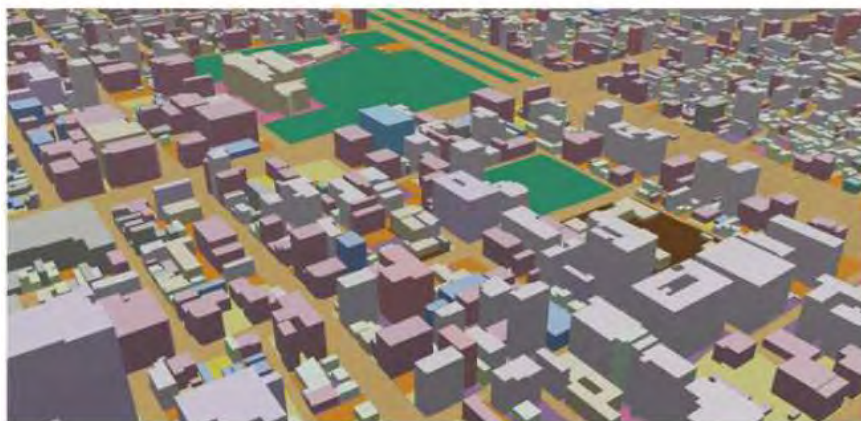
土地利用現況の塗分け

土地利用現況のデータは、従来から二次元の土地利用現況図として作成・活用されることも多い。

この土地利用現況図を3D都市モデルを用いて活用する場合、例えば、属性情報を付与した建物モデルと重ね合わせることで、クロス表示による高度な可視化が可能である。

(下図参照)

(出典：PLATEAU VIEW)



土地利用現況と
建物利用現況のクロス表示

都市計画基礎調査の「建物利用現況」と「土地利用現況」の情報を重ね合わせて表示することで、属性情報の切り替えにより、都市構造を立体的に把握することが可能となる。

(出典：PLATEAU VIEW)

■ 3D都市モデル活用事例紹介:

3.1 地域の防災意識向上

災害リスク情報を3D都市モデル上によりわかりやすい形で視覚化することで、地域住民等が災害をよりリアルに、かつ疑似的に体験することができる。これを通じて、災害リスクを自分事として捉えるきっかけとなるなど、防災意識の向上につなげることが可能となる。

1) 小中学校における防災教育

小学校・中学校においては、地域の防災について学習することが小学校・中学校学習指導要領に示されている。学校では、ハザードマップを通じて、地域の災害リスクを把握し、児童・生徒自身や家庭の避難行動等を考えるグループワークを導入した授業等が行われている。

このような授業においては、タブレット等を用いて、児童・生徒が自身の住む町の3D都市モデルに洪水等の災害リスクを重ね合わせて見ることで、身近な建物がどの程度浸水するのか、通学路において危険な箇所はどこかといった災害リスク情報を実感により近い形で把握し、イメージすることが可能となる。

また、災害リスクをより身近に感じることができるため、災害を現実問題として捉えるとともに、防災に対する意識を養うことができる。また、災害時における具体的な避難行動の在り方を考えるきっかけを提供することもできる。小中学校における防災教育は、家庭や地域でのリスクコミュニケーションを促し、生徒自身だけでなく、地域ぐるみでの防災意識の向上にも寄与することが期待される。



地域や関係機関と連携した防災教育
出典：水害ハザードマップの利活用事例集
伊勢市

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 3D都市モデル活用事例紹介:

3.2 危機管理体制の強化

精緻に再現された3D都市モデル上で災害をシミュレーションすることで、災害対応上の課題をより正確に把握し、課題に対してより実効性のある具体的な対策を立案することが可能となる。

1) 災害対応に係る防災計画等の立案と図上演習

大規模災害発生時には、国や自治体、警察、消防、自衛隊等が連携し、災害発生前の予警報・避難情報の発表、水防活動の実施、発災後の救助救出（さらには医療搬送）、消火活動、被害状況調査、物資輸送、応急復旧等の各種活動を行うこととなる。この災害対応の実行性を高めるため、各機関では単独または合同で、対応の手順等を示した防災計画やマニュアルを立案し、さらに防災計画等を検証するため、地図等を用いた図上演習や、実際に使用する機器等を用いて作業手順を確認する実動訓練を行っている。

防災計画等を立案する際には、3D都市モデルに地域の災害リスクを重ね合わせ、都市スケールで災害リスクを把握することで、検討の参考とすることができる。例えば、被害が想定されるエリアの分布から被害状況等を効率的に把握するための最適な映像機器の設置箇所の検討を行ったり、建物高さや浸水深の関係から救助ヘリ等が救助可能な施設の選定を行ったりすることが可能となり、必要に応じて災害協定を締結する等、都市全体を見渡した防災計画の立案に寄与することが期待できる。また図上演習では、1つの演習の中で、災害リスクの種類、大きさや範囲、屋根形状等を踏まえ、上空からの救助と救助艇を使った地上からの救助等のより効果的な対策を検討する等、実動に近い環境下での図上演習を実施することができる。



浸水ランクと屋根形状を表示した建物
出典：PLATEAU HP



災害図上訓練（DIG）
出典：国土交通省
水防災意識社会 再構築ビジョン 取組事例

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 市町ニーズ調査

- 募集期間：8月27日から9月21日
- 検討委員会を通じて全市町に対してアンケート調査票を配布
- 募集内容：
 - ★ 3D都市モデル試作・検討の希望
 - ★ 活用したい分野・関心のある分野
 - ★ 自由記述(3D都市モデルを活用し解決したい課題／想像したい価値など。3D都市モデルを活用したいユースケース)

10市町 希望有として回答

⇒希望する10市町にヒアリングを実施して
本年度支援を行う方針とした

令和3年〇月〇日。

三重県市町総合事務組合情報推進課〇行。

三重県共有デジタル地図〇3D都市モデルの試作に関する希望調査票

市町名

参考資料「3D都市モデルを活用した公共領域におけるユースケース実証調査の概要」を参考に3D都市モデルに関する調査項目についてご記入ください。

※アンケート結果を参考にヒアリング調査を実施し、3D都市モデル試作対象市町を選定いたします。なお応募多数の場合は、本年度の支援対象市町を事務局で選定させていただくこともございますので、ご了承ください。

(1)3D都市モデルの試作・検討を希望しますか？

希望する。		希望しない。	
-------	--	--------	--

(2)「希望する」を選ばれた場合、「3D都市モデルを活用した公共領域におけるユースケース実証調査の概要」をご参考いただき、下記項目についてご回答ください。

3D都市モデルを活用したい分野・関心のある分野 ※複数回答可	1. →まちづくり計画策定・公共空間・インフラ整備・計画運用。 2. →防災(防災計画・防災意識啓発・早期リスク発見)。 3. →地域活性化・観光(賑わい創出・道難回避・観光振興)。 4. →その他(<input type="text"/>)
自由記述。 3D都市モデルを活用し解決したい課題／想像したい価値など。	
3D都市モデルを活用したいユースケース。 ※キーワードでも可	
自由記述。 導入したい技術など。	

【調査票送付先】

■ 三重県市町総合事務組合〇情報推進課。
〇担当：船部、伊藤、坂井。
TEL：059-225-2138。
FAX〇059-227-5494。
E-mail〇er-dma01@sh-ichosogo-mie.jp。

【3D都市モデルに関する問合せ先】

■ 国障航業株式会社〇地理空間G。
担当：滝澤。
TEL：052-747-3114。
E-mail〇miegis3@kkg-gr.jp。

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

市町ヒアリング調査結果(抜粋)

市町	担当部署	活用・関心のある分野	ヒアリング確認内容(抜粋)
四日市市	ICT戦略課	まちづくり 防災 地域活性化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・スマート街路灯や人流データの把握、賑わい創出、自動運転、オープンデータ化などに関連して、3D都市モデルの整備と活用が考えられる。 ・防災面では市全域のデータが必要。立地適正化計画で防災指針を定める必要があり、想定災害の可視化に3次元データが有効と考えられる。
伊勢市	都市計画課	まちづくり 防災	<ul style="list-style-type: none"> ・1級河川宮川からの被害が大きい。 ・土地の高度利用の状況を踏まえた都市計画情報の可視化で活用したい。
桑名市	都市整備課 防災・危機管理課	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水(洪水、津波、高潮)だけでなく、土砂災害危険区域にも対応したい ・土砂災害危険区域について、2次元の図面では、1つの建物でも被害が想定される山側の部屋と被害が想定されない方の部屋で分けている。このような対応が行われるとよい。
鈴鹿市	情報政策課 都市計画課 防災危機管理課	まちづくり 防災 地域活性化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・要援護に関する情報との組合せは有用と考えられるが、個人情報に留意する必要がある。 ・都市計画基礎調査で保有している建物構造や階数と浸水情報を重ね合わせて、様々な活用が考えられる。防災面では昭和56年以前の建物を区分した表現ができるとよい。
亀山市	総務課 都市整備課	まちづくり 防災	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画における活用例として、立地適正化計画における防災指針の作成、住民説明会、用途地域を重ね合わせ土地の高度利用の分析が考えられる。 ・下水道分野では、内水氾濫等状況に応じたシミュレーションで活用できる可能性がある。道路分野では、道路地物の追加により、地域住民との話し合いや道路改良イメージの共有などの利用が考えられる。

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

市町	担当部署	活用・関心のある分野	ヒアリング確認内容(抜粋)
熊野市	建設課	まちづくり 防災 地域活性化・観光	<ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地の魅力向上への景観等改善や利便性改善に係る計画を3Dで可視化して地域住民等に説明していく必要がある。 ・津波浸水被害等を住民にわかりやすく説明するため、津波が集落にどのように到達するか等を可視化する必要がある。 ・大雨時の河川水位上昇に係る支流の水位上昇及び集落の冠水について、地域住民に情報発信する必要がある。
志摩市	総合政策課	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・高低差を考慮した避難路計画の見直し。風水害時の家屋浸水に3Dを活用しての原因説明と事前リスクの把握。 ・住民にも公開し、災害予防や開発計画その他産業に役立てたい。津波浸水、洪水を3Dで表示、記録し可視化したい。
伊賀市	伊賀消防署 都市計画課	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・事前計画では警防や延焼のシミュレーションの用途がある。事後として消火活動の検討会を行っており、3D都市モデルの活用が考えられる。 ・構造情報(木造、耐火造など)と接建物との距離データに延焼リスク係数などを加えてより実践的なシミュレートを計画している。
木曽岬町	危機管理課	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・3D都市モデルを活用し、災害時のイメージをより身近に感じてもらうことにより、住民及び職員の防災意識を高めてもらいたい。 ・伊勢湾台風など過去の災害を経験していない住民は、海水が堤防を越えてくるイメージをあまり持てない。 ・時系列ごとに浸水状況が分かるデータが理想である。
大台町	企画課	防災	<ul style="list-style-type: none"> ・ため池が氾濫した際、どの地域にどれくらいの時間で到達するか、時系列で確認したい。 ・土砂災害に関してはイエローゾーンの中でも地質の違いや傾斜、地形によってリスクが異なるため、3Dデータを用いて可視化できるとよい。道路がどこまで埋まってしまうのか、分かるとよい。

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 共有デジタル地図を基にした3D都市モデルの試作

対象市町における3D都市モデル試作計画・データ収集

- ・ アンケート及びヒアリング調査結果の整理
- ・ 共有デジタル地図
- ・ 県市町提供データの整理

三次元データの作成

- ・ 高さデータの付与
- ・ 三次元データ処理
- ・ ハザード情報等の三次元データ加工

デモ環境の構築

- ・ ビューワ用データ変換
- ・ データ調整
- ・ デモ環境インストール

試作データの確認

- ・ 市町毎打合せ
- ・ 意見交換



三重県提供データ:高潮(10mメッシュデータ)



ビューワ表示のイメージ:LOD1

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

【本年度の検討成果】

① 3D都市モデル試作データ

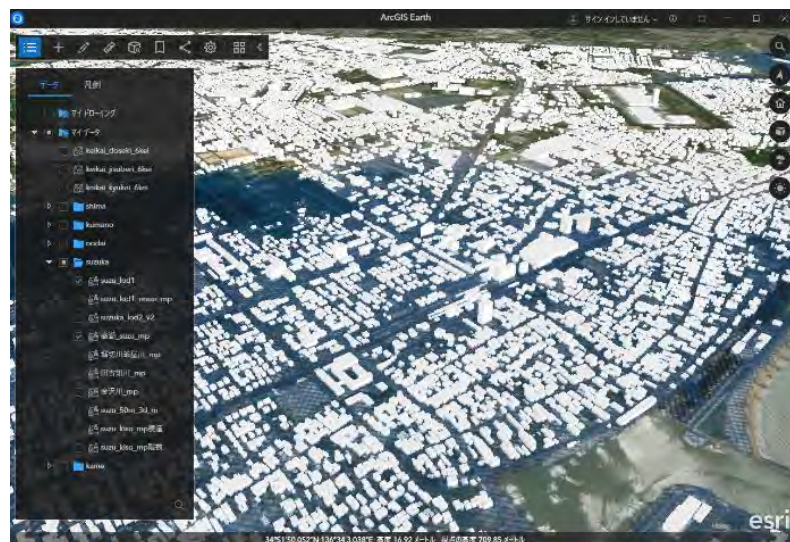
10市町＋自治会館周辺を含む地区(津市内)で実施

② ビューワ環境の提供

③ 3D都市モデル試行の事例集

④ 導入検討のための費用概算

市町への配布は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためのまん延防止等重点措置等状況を見て3月から4月にかけて調整の予定



3D都市モデル表示用ビューワ(イメージ)

自治体名 四日市市	
ユースケースの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内における防災対策の推進や防災意識の向上を図るため、3D都市モデルの中心市街地を、この取り組みに活用している。本試作
今回の試行で利用したデータ	<ul style="list-style-type: none"> 【建築物 (LOD1) 及び 3次元共有デジタルデータとして、建築物の3次元計測データ (ハザード情報) 等 ・県が保有している3次元水深データ 【ハザード情報】：河川が公算している3次元水深データ 【ハザード情報】：河川が公算している3次元水深データ 【ハザード情報】：河川が公算している3次元水深データ
試行結果	<ul style="list-style-type: none"> ・津波及び河川浸水被害による防災情報を3次元データで重ねて表示した。 ・都市計画基礎図面 (建物利用現況) の属性を付与することにより、用途区分や階数別、建築年代と用途別での表示区分を行った。 ・中心市街地活性化区域のうち、特に重点が置かれている地区を対象に3次元建物データ (LOD2) を作成した。 ・建築物とハザード情報の3次元データを可視化して利用するために、専用のビューワを提供した。
期待される効果	<ul style="list-style-type: none"> ・災害情報を3次元で可視化することにより、市内での防災計画等の見直しの検討や住民の防災意識向上を図る。 ・立地適正化計画に関連した防災指針の見直しなど、都市計画分野における行内検討での利用。
今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> 市では次年度以降に3D都市モデルの構築を検討されている。このなかで中央通りの再開発地区について精緻に地物の情報を取得して現況の保存や計画建築物等の表示シミュレーションを可能とし、中心市街地における協議会 (四日市スマートリジーン・コア推進協議会) の検討で利用を目指している。




近畿四日市駅周辺 河川洪水浸水シミュレーション

本試作データは市町による3D都市モデル導入検討を行うための内部資料としての位置付けです。実際の業務に利用することはお控えください。

利用可能 (例)

- ・市町において、3D都市モデルの利用や導入を検討するために試作データを重畳で表示する。
- ・ビューワの画面キャプチャを取得して市内向けの資料を作成する。
- ・市町の災害対策と共同で3D都市モデルの利用検討のための会議で利用する。
- ・市町の災害対策と共同で3D都市モデルの利用検討を目的に試作データを提供する。
- ・市民説明会や防災関係者向け資料として、市町に提供し、市町に活用してもらう。
- ・住民説明の参考として、重畳で表示する。(外観への資料配布は不可)

利用不可 (例)

- ・商業目的での利用。(都市計画、地域防災計画などの利用)
- ・市内検討以外の印刷資料及びデータの配布。

利用の可否が不明な場合は、市町災害対策協議会にお問合せください。

3D都市モデル試行の事例集

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

■ 試作データの取り扱いについて

- 市町による3D都市モデル導入検討等を行うための内部資料としての位置付け

★ 本試作データを実際の業務に利用することは控えてください

※共有デジタル地図の利用分野拡大検討の枠組みの中で試作を行っています。
実際の業務で利用する際には、国土交通省Project“PLATEAU”で規定している
品質評価等を行う必要があります。



3D都市モデル標準製品仕様書
Standard Data Product Specification for 3D City Model

01

6.3 品質要求及び品質評価手順

データ製品に対する品質要求及び品質評価手順を示す。

6.3.1 完全性

No.	CO1
品質要求	データ製品内に、gmtk
品質要求	完全性・信頼性
品質適用範囲	データ製品内の全てのデータ製品に適用する
品質評価項目	以下に示す項目を評価する
適合品質水準	全数・自動検査を実施
品質評価手法	1. データ製品に書かれた

No.	CO2
品質要求	参照データに適用
品質要求	完全性・信頼性・精度
品質適用範囲	以下に示す項目を評価する
品質評価項目	以下に示す項目を評価する
適合品質水準	全数・自動検査を実施
品質評価手法	1. 参照データに書かれた

6.3.2 正確性

No.	LO1
品質要求	参照データに適用
品質要求	完全性・信頼性・精度
品質適用範囲	以下に示す項目を評価する
品質評価項目	以下に示す項目を評価する
適合品質水準	全数・自動検査を実施
品質評価手法	1. 参照データに書かれた

6.3.3 位置正確度

データ製品に対して、いずれのレベルも位置正確度として要求するかを決定する。なお、このレベルは地物ごとに異なるとする。

外部位置正確度の適合品質水準として、作業開始の準拠に位置する地物情報レベルを参考として決定することができる。

増量品質水準は、データ製品が満たすべき位置正確度として、外部位置正確度における地物情報レベル 2500、地物情報レベル 1000、及び地物情報レベル 500 を対象とする。

以下に、地物情報レベル 2500 の場合の位置正確度の品質要求を示す。

● 地物情報レベル 2500 の場合の位置正確度の品質要求

No.	LO1
品質要求	参照データに適用
品質要求	完全性・信頼性・精度
品質適用範囲	以下に示す項目を評価する
品質評価項目	以下に示す項目を評価する
適合品質水準	全数・自動検査を実施
品質評価手法	1. 参照データに書かれた

出典：国土交通省 <https://www.mlit.go.jp/plateau/libraries/>

3-3. 3D都市モデルにおける共有デジタル地図の利用拡大にむけた検討

利用可能(例)

- ・ 庁内において、3D都市モデルの利用や導入を検討するために試作データを画面で表示する。
- ・ ビューワの画面キャプチャを取得して庁内向けの資料を作成する。
- ・ 市町の支援業者と共同で3D都市モデルの利用検討のための会議で利用する。
- ・ 市町の支援業者に、3D都市モデルの利用検討を目的に試作データを提供する。
(支援業者とは秘密保持契約等が必要)
- ・ 住民説明の参考として、画面で表示する。(外部への資料配布は不可)

利用不可(例)

- ・ 実業務での利用。(都市計画、地域防災計画などの利用)
- ・ 庁内検討以外の印刷資料及びデータの配布。

利用の可否が不明な場合は、市町総合事務組合にお問合せください。